

「秋の鳴く虫」



- 期間：9月5日（土）～9月20日（日）
- 会場：こんちゅう館 昆虫ホール
- 内容：今年も鳴く虫たちの季節がやってくる！
コロコロリー♪、ルルルルル♪
鳴く虫が織り成す美しい音色が響く癒しの空間をお楽しみください。

「身近で発見！？」

太田川の昆虫たち



- 期間：10月3日（土）～11月3日（祝・火）
- 会場：こんちゅう館 昆虫ホール
- 内容：広島市内を流れる太田川には、様々な昆虫が暮らしています。本企画展では太田川で見られる昆虫やその観察方法をご紹介します。

こんちゅう館ウラ話 こんちゅう館で「昆虫ではない」生きものを飼う??

こんちゅう館は、「昆虫」を飼育し、展示する施設です。しかし、実は飼っているのは「昆虫」だけではありません。ここでは、現在こんちゅう館で飼っている「昆虫ではない」生きものたちをご紹介します。（内田）

ダンゴムシ



落ち葉などを
入れ湿らせた
ケースで管理
しています。

せそくどうぶつ
なかまとして
せいたいてんじ
生体展示
しています。

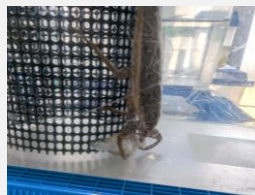


オタマジャクシ、カエル



金魚のエサを
あたえて管理
しています。

ゲンゴロウの
幼虫やタガメ
のエサとして
つかいます。

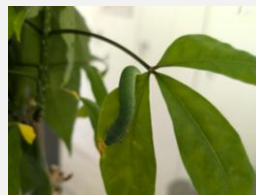


植物



植物を育てる
ための特別な
温室で管理
しています。

チョウの幼虫
やバッタなど
のエサとして
つかいます。



こんちゅう館 News

もくじ

- ・表紙 : 企画展のスター ササキリ
- ・2ページ : 職員の推し虫 ハマスズ
- ・3ページ : 虫の飼いや スズムシ
- ・4ページ : 企画展のご紹介・こんちゅう館ウラ話

企画展「秋の鳴く虫」 企画展のスター

ササキリ

Conocephalus melaenus

バッタ目 キリギリス科



ササキリの幼虫



ササキリの成虫（オス）



実物大

秋、笹藪から「シリシリシリ…」という鳴き声が聞こえてくることがあります。声の主は小型のキリギリスの仲間、ササキリです。

ササキリは名前の通り、ササやタケが茂る環境に生息しています。姿や大きさのよく似た種（オナガササキリやホシササキリ、ササキリモドキなど）が複数いますが、それらと比べると体型が寸詰まりで、目の後ろから翅にかけて黒い筋があることで見分けることができます。

成虫の鳴き声特徴的なササキリですが、幼虫の姿もとても特徴的です。ほかのキリギリスの仲間の幼虫は緑か褐色をしているものが多いのですが、ササキリの幼虫は黒とオレンジの派手な色合いをしています。この体色は一説に、カメムシの幼虫やアリなど、「ほかの生物から避けられる昆虫」への擬態ではないかと言われています。この秋、笹藪の近くを通ることがあったら、ぜひ探してみてください。（逸見）

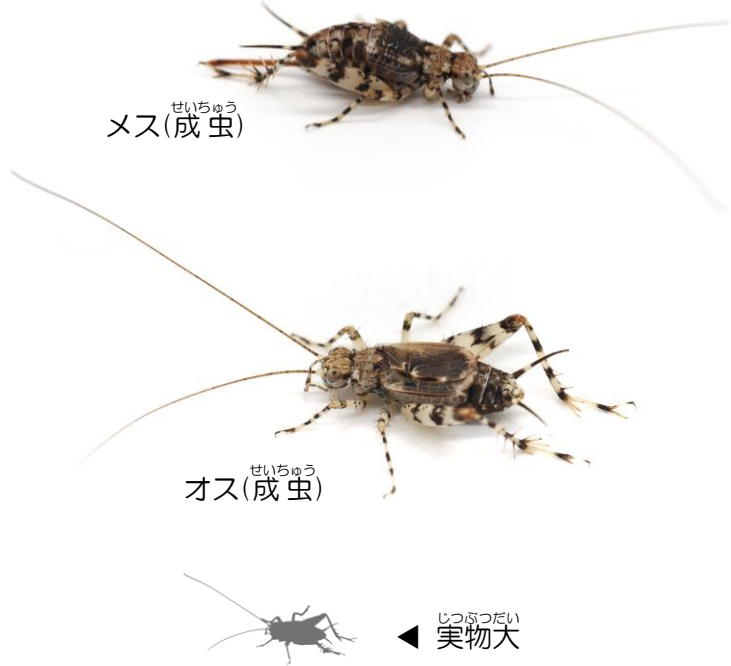


イベント情報
はこちらから

ハマスズ *Dianemobius csikii*

バッタ目 ヒバリモドキ科

こんちゅう館職員の“推し虫”を紹介するコーナー。今回の“推し虫”はハマスズです。(久我)



ハマスズ とは？

うみ すなはま かせんじき すなち せいそく
海の砂浜や河川敷の砂地に生息する、1cm ほどの
ちい 小さなコオロギの仲間です。広島県では宮島の砂浜と
おおたがわ かせんじき み
太田川の河川敷から見つかっています。ただし、
こうした生息地は護岸工事などによって減少して
いて、2021年度版の広島県のレッドリストでは
絶滅危惧Ⅱ類に選定されています。
せいちゅう しゅつけん じ き ねん かい
成虫の出現時期は1年に2回あります。6月頃に
う か せいちゅう たまご う たまご ようちゅう なつ
羽化した成虫が卵を産むと、卵からでた幼虫が夏の
あいだ そだ がつこう じせだい せいちゅう
の間に育ち、9月頃に次世代の成虫がでてきます。

お 推し① すな み め 砂にそっくりな見た目

ハマスズの見た目は生息している砂地にそっくりで、じっとしていると、どこにいるのか全く分かりません。ただし、ハマスズ自身は好んで砂の上にいるわけではないようです。



▲ 砂の上にいるハマスズ

お 推し② すいめん およ 水面を泳げる

バッタやコオロギの仲間では、水面に落ちてでも泳いで移動できることが様々な種で報告されています。ハマスズも同様に水面を泳ぐことができ、水際でジャンプをして水面に落ちてしまったときには、後ろあしで泳いで上陸していました。



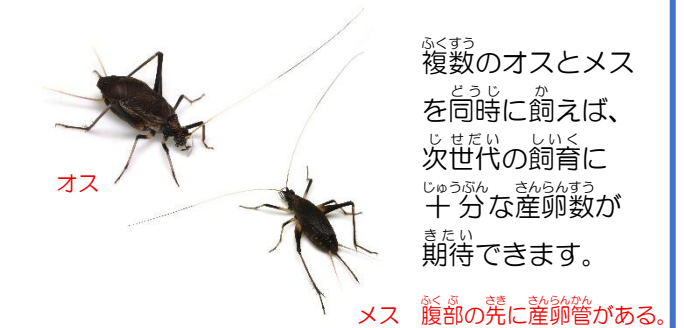
▲ 水面に浮かぶハマスズ



こんちゅう館では、企画展「秋の鳴く虫」で展示するためにスズムシの累代飼育をしています。今回は、江戸時代にはすでに日本で飼育され、楽しまれてきたスズムシの飼い方を解説します。(藤井)

せいちゅう せ わ 成虫の世話

ひび せ わ きりふ ようちゅう おな
日々の世話(エサやり・霧吹き)は幼虫と同じです。
う か ごすこ な
羽化後少ししたら鳴きはじめます。
（室内では、かなりよりよく響きます。）
さんらん
産卵させるにはオスとメスを一緒に飼育します。
せいちゅう とき こうかん
成虫になった時に、マットとケースを交換します。



オスを個別に飼育し、長生きさせることもできます。

たまご せ わ 卵の世話

せいちゅう し ご ひょうめん きれい きりふ
成虫の死後は、マットの表面を綺麗にし、霧吹き
した後、ふたにビニールを挟んで乾燥を防ぎます。
び あ おくがい ほかん
日が当たらず、涼しい屋外で保管します。



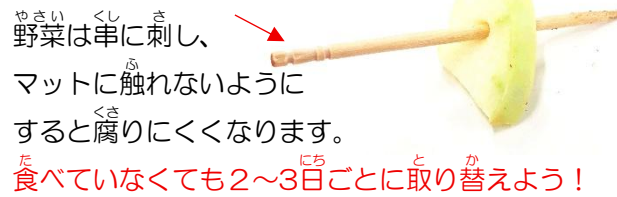
スズムシの卵は、冬の寒さを経験しないと孵化しません。でも、やり方次第では1年中スズムシを飼育・展示できます。まず室温で1か月置いた後、冷蔵庫で2か月以上冷やします(長くて1年くらい)。その後、室温に戻すと約1か月で孵化が始まります。

エサ

- ・フレークタイプのメダカのエサ
- ・水分のある野菜(ナス・きゅうり)など



フレークタイプのエサは、ペットボトルのキャップなどに入れるとカビにくいです。
ともく ぼうし じゅうよう
共食い防止に重要!



ようちゅう せ わ 幼虫の世話

5月頃から卵の入ったケースに霧吹きをすると、6月頃より幼虫が孵化してきます。
孵化した幼虫は、隠れ家ごと新しい飼育ケースに移します。



6月～8月までは、霧吹きとエサの取替えをします。毎日が望ましいですが、3日毎でも大丈夫です。マットは汚れてにおう、カビるようであれば交換。